

(2) 分詞構文応用

- ・受動態：being + 過去分詞、もしくは過去分詞で始める（普通は過去分詞から）。

(Surrounded by tall students), <the teacher> looks [small].
 M S V C

(背の高い生徒に囲まれているので、その教師は小さく見える。)

- ・否定：not で始める。

(Not knowing <what to do>), <I> (just) slept.
 M S M V

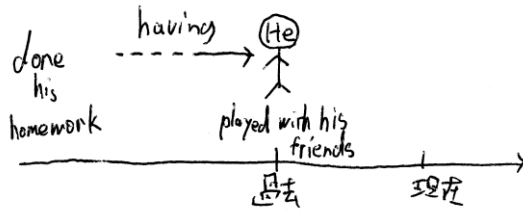
(何をすれば良いのか分からなかったので、私は単に寝た。)

- ・過去完了：having + 過去分詞

(Having done <his homework>), <he> played (with his friends).
 M S V M

=After he had done his homework, he played with his friends.

(宿題を済ませた後、彼は友達と遊んだ。)



- ・独立分詞構文

分詞構文の部分の主語と、本文の主語が異なる場合、本文の主語をそのまま分詞の前に置くことがある。

(<It> being [hot]), <I> took off <my jacket>.
 M S V O

=Since it was hot, I took off my jacket.

(暑かったので、私はジャケットを脱いだ。)

- ・「接続詞 + 分詞」の分詞構文

分詞構文の意味を明確にするために、分詞の前に接続詞が付けられることがある。

(While having <dinner>), <we> discussed <the plan>.
 M S V O

= While we were having dinner, we discussed the plan.

(夕食を食べている間、私たちはその計画について話し合った。)

→実践演習 Part G へ